

慶應義塾大学

保健管理センター一年報

Annual Report of Keio University Health Center



2018

慶應義塾大学保健管理センター年報
Annual Report of Keio University Health Center

2018

目 次

巻頭言.....森 正明

I 本編

第1. 大学保健管理業務	3
第2. 一貫教育校保健管理業務	6
第3. 感染症対策	8
第4. 環境衛生業務	9
第5. 産業保健活動	11
第6. 教育	12
第7. 研究	13
(第8. 会議, 第9. 関連資料は資料編のみ)	
第10. 慶應義塾診療所	14

II 資料編

第1. 大学保健管理業務	
1. 年間主要業務	17
(1) 日吉本部	
(2) 三田分室	
(3) 湘南藤沢分室 (看護医療学部を含む, 大学担当)	
(4) 信濃町分室	
(5) 矢上分室	
(6) 芝共立分室	
2. 学生定期健康診断	26
(1) 学生定期健康診断実施項目一覧	
(2) 学生定期健康診断受診状況	
(3) 学生定期健康診断の流れ	
(4) 学生定期健康診断 各検査の管理区分C判定集計	
(5) 学生定期健康診断 生活区分, 現病歴, 身体障害者の状況	
(6) 学生定期健康診断 二次検査等フォローアップ件数	
(7) 学生定期健康診断 結果報告書配布数・Web 閲覧件数	
(8) ライフスタイル調査結果	
3. 教職員定期生活習慣病健康診断	33
(1) 教職員定期生活習慣病健康診断実施項目一覧	

(2) 教職員定期生活習慣病健康診断受診状況	
(3) 教職員定期生活習慣病健康診断の流れ	
(4) 教職員定期生活習慣病健康診断集計（40歳未満）	
(5) 教職員定期生活習慣病健康診断集計（40歳以上）	
(6) 特定健康診査	
(7) 特定健康診査有所見者数	
(8) 教職員定期生活習慣病健康診断 管理の状況	
(9) 教職員生活習慣病健康診断 骨密度検査集計	
(10) メンタルヘルスチェック	
(11) 教職員定期生活習慣病健康診断 消化器系検査集計	
(12) 教職員定期生活習慣病健康診断 女性教職員検診集計	
(13) 参考資料	
4. その他の健康診断	50
(1) 特定業務従事者の健康診断	
(2) 特殊健康診断	
5. 各種行事等救護状況	51
6. 特定保健指導	52
7. 教職員カウンセリング利用者数	52
8. その他の活動	52
第2. 一貫教育校保健管理業務	
1. 年間主要業務	55
(1) 幼稚舎分室	
(2) 横浜初等部分室	
(3) 普通部分室	
(4) 中等部分室	
(5) 湘南藤沢中等部分室	
(6) 湘南藤沢高等部分室	
(7) 高等学校分室	
(8) 志木高等学校分室	
(9) 女子高等学校分室	
2. 保健室利用状況	64
(1) 幼稚舎分室	
(2) 横浜初等部分室	
(3) 普通部分室	
(4) 中等部分室	
(5) 湘南藤沢中等部・高等部分室	
(6) 医療機関に依頼した外傷内訳 (幼稚舎・横浜初等部・普通部・中等部・湘南藤沢中等部)	
(7) 精神保健相談 (幼稚舎・横浜初等部・普通部・中等部・湘南藤沢中等部・高等部)	
(8) 高等学校分室	
(9) 志木高等学校分室	
(10) 女子高等学校分室	
(11) 精神保健相談 (高等学校・志木高等学校・女子高等学校・湘南藤沢高等部)	

(12) 保健室利用一覧	
3. 児童・生徒定期健康診断	77
(1) 小学校（幼稚舎・横浜初等部）・中学校（普通部・中等部・湘南藤沢中等部）	
(2) 高校（高等学校・志木高等学校・女子高等学校・湘南藤沢高等部）	
第3. 感染症対策	
1. 結核接触者健康診断	85
2. 結核スクリーニング	86
(1) 対象および地区別受検者数	
(2) IGRA（インターフェロン γ 遊離試験）検査結果	
(3) IGRA 検査後措置件数	
3. ウイルス性疾患抗体価検査（麻疹・流行性耳下腺炎・風疹・水痘）	87
(1) 大学	
(2) 一貫教育校	
(3) 教職員	
4. 予防接種	90
(1) B型肝炎ワクチン	
(2) インフルエンザワクチン	
5. 血液曝露対応 年間対応数および事後措置	91
6. 学外施設実習前便培養検査	91
第4. 環境衛生業務	
1. 教室等の調査	95
2. 食堂の調査	97
第5. 産業保健活動	
1. 労働衛生管理体制	101
2. 衛生委員会	101
3. 職場巡視	101
4. 就業判定	102
5. 産業医面接	102
6. 労働安全衛生教育	103
7. 労働者の心の健康保持	103
第6. 教育	
1. 大学講義	107
2. 予防医療センター	111
3. 集団保健衛生教育	112
第7. 研究	
1. 保健管理センター教職員研究業績	119
2. 保健管理センター研究会	124
3. 保健管理センター研修会	124
4. 部門ブロック別研修	124

第 8. 会議	
1. 保健管理センター運営委員会	127
2. 業務連絡会	127
3. 幹事会	128
4. 人事委員会	128
5. 看護職総会	128
6. 対外的活動	128
7. ワーキンググループ	128
第 9. 関連資料	
1. 慶應義塾組織図	131
2. 慶應義塾大学保健管理センター規程	132
3. 大学保健管理センター人事委員会内規	135
4. 保健管理センター教職員一覧	136
5. 保健管理センター人事	137
6. 保健管理センター配置図	138
第 10. 慶應義塾診療所	
1. 診療所について	141
2. 慶應義塾診療所規程	142
3. 診療所等受診者数	144
4. 精神科受診者数	145
5. 外部医療機関依頼数	145
6. 診断書発行数	145
7. 慶應義塾診療所管理委員会記録	146
編集後記	今村江里子

巻 頭 言

慶應義塾大学保健管理センター
所長・教授 森 正 明

2018年度の最も大きな行事は8月2日（木）、3日（金）の両日、慶應義塾大学三田キャンパスの南校舎ホールにおいて、第56回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会が開催されたことです。この研究集会は全国大学保健管理協会に加盟し、関東甲信越地方部会に所属している国公立・私立の大学や短期大学において、保健管理業務を行っている医師、保健師、看護師、事務職員が参加して年1回開催される集会で、今回は「健康と安全をめざして～多様な情報を活かし、保健管理のさらなる充実を～」をテーマとしました。

研究集会冒頭の部会長挨拶では、長谷山彰塾長が、義塾では保健管理を重視し、今から150年前に慶應義塾と称した時には保健管理センターの前身である医務部を設けていたこと、半学半教の精神で学び合うことの重要性などを話されました。続く特別講演では竹内勤常任理事より「免疫難病と学校保健」というタイトルでご講演いただきました。その後の教育講演1では、スポーツ医学研究センター准教授の石田浩之氏より「スポーツ障害対策のトピックスより、脳しんとう」についてご講演いただきました。午後のシンポジウム1は「教職員の健康増進」というテーマで4人のシンポジストから、それぞれの専門分野についてお話いただきました。東京大学環境安全本部教授の大久保靖司氏からは「多様化する大学教職員の健康管理」、北里大学医学部公衆衛生学教室教授の堤明純氏からは「ストレスチェックの活用」、中町誠法律事務所弁護士の中井智子氏からは「長時間労働対策－勤怠管理がない教職員にどう対応するか－」、東京医科大学公衆衛生学分野講師の菊池宏幸氏からは「座業（デスクワーク）の健康障害と対策」というタイトルでお話いただき、総合討論でも活発な意見交換が行われました。その後の教育講演2は「学内の感染症対策」というテーマで、国立感染症研究所感染症疫学センター第三室長の多屋馨子氏からは「学校感染症対策」、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター学術研究員の江下優樹氏からは「有害昆虫対策（デング熱、ジカウイルス感染症等に備え）」というタイトルでお話いただきました。2日目午前中のシンポジウム2では「身近なリスクの回避教育」というテーマで、横山裕一保健管理センター副所長から「飲酒の害と教育」、精神・神経科学教室教授の三村将氏から「ネット依存症の害と教育－デジタル社会で生きるために－」、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部心理社会研究室長の嶋根卓也氏から「『ダメ。ゼッタイ。』で終わらせない薬物乱用防止教育」というタイトルでお話いただいた後、熱心な質疑応答が行われました。午後の保健・看護分科会シンポジウムは「教職員への健康支援」というテーマでより具体的な事例をもとに討論が行われました。両日とも猛暑日にもかかわらず来校していただいた400名を超える参加者の方々と講師の方々、運営にあたったスタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、2018年度の主な人事的な動きですが、医師では4月1日付で河邊博史医師の後任として、後藤伸子医師が就任しました。また、副所長の横山裕一医師が教授に昇格しました。また、小児科では三井俊賢医師の後任として、山田茉未子医師が就任しましたが、2019年4月1日付で

医学部の臨床遺伝学センターに異動することになりました。新たな職場でのご活躍を祈っています。

2018年度の保健管理センターの活動（健康診断，感染対策，環境衛生，産業保健，教育，研究など）については本誌にまとめておりますので，ご参照いただくとして，ご紹介しきれない部分について言及するならば，昨年度から開始した医学部泌尿器科学教室と共同で行っている精巣捻転に関する啓発活動の効果は顕著で，次々と救済例が報告されており，学会でも発表しました。研究面では2018年度末の時点で，匿名化したデータを用いた観察研究45件をホームページで公表しています。また，システムデザイン・マネジメント研究科との共同研究は2018年度末で終了しましたが，継続中の医学部の眼科学教室あるいは精神神経科学教室と共同研究，厚生労働省の厚生労働科学研究の一つである保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究に加え，大学病院感染制御センターと3つの共同研究が開始されています。

今後もスタッフ一同，一致協力して保健管理センターの活動にあたってまいりたいと思います。関係者の皆様には，引き続きご指導，ご協力をお願い申し上げます。なお，今回の年報につきましても，ご意見などがありましたら遠慮なくお寄せください。

I 本編

- 第 1. 大学保健管理業務
- 第 2. 一貫教育校保健管理業務
- 第 3. 感染症対策
- 第 4. 環境衛生業務
- 第 5. 産業保健活動
- 第 6. 教育
- 第 7. 研究
- (第 8. 会議, 第 9. 関連資料は資料編のみ)
- 第 10. 慶應義塾診療所

第 1. 大学保健管理業務

1. 学生定期健康診断

資料編 1- (1) 「学生定期健康診断実施項目一覧」に、2018 年度の大学生対象の学生定期健康診断（学生健診）で実施された検査項目を示した。学校保健安全法施行規則（保安則）第六条第 1 項の検査項目、第 4 項の除外可能項目を鑑み、法定項目を満たしている。詳細は 2014 年の本年報 p. 3-4 で述べた。

資料編 1- (2) 「学生定期健康診断受診状況」に 2018 年度の学生の健診受検率を示した。表アに、学部生のデータを学部、学年、男女別に記した。本年度の学部生の受検者数は在籍者 28,807 名に対して 24,696 名（受検率 85.5%；昨年 87.0%）であった。大学院修士課程（同表イ）、大学院博士課程（同表ウ）、専門職学位過程（同表エ）の受検率はそれぞれ、86.0%（昨年；86.2%）、67.7%（71.9%）、81.6%（80.8%）であった。学生全体では在籍者 33,751 名（昨年；34,071 名）に対し、受検者は 28,677 名（29,363 名）で受検率は 84.9%（86.2%）であった。男女ではそれぞれ男子 83.3%（昨年 84.4%）、女子 88.0%（89.4%）であった。近年、受検率は減少傾向にあり対策を講じる必要がある。

医療系学部（医学部、薬学部、看護医療学部）での学生健診受検率はそれぞれ、99.9（昨年；99.7）、97.9（100.0）、98.2（99.2）%であった。病院実習がある医療系学部の受検率は高いが、それを 100%にする必要がある。

学生定期健康診断受検率に関する詳細な考察は 2014 年の本年報 p. 4-5 で述べた。

資料編 1- (3) 「学生定期健康診断の流れ」に定期健康診断後の事後措置の流れを記した。このスキームは学校保健安全法第 13 条および保安則第 9 条に従っている。

資料編 1- (4) 「学生定期健康診断—各検査の管理区分 C 判定集計」に定期健康診断で C 判定、即ち、再検査、精密検査、治療の対象となった者（基準は表中に記載）の人数を示したが、前年と比べ大きな変化はなかった。

資料編 1- (5) 「学生定期健康診断—生活区分、現病歴、身体障害の状況」に生活区分、現病歴、身体障害の観点より何らかの配慮が必要な者の人数を示した。前年は受検者の 1.2%であった呼吸器系疾患の配慮必要者が 2.2%に増加していたが、その理由は不明である。他の項目では大きな変化はなかった。

資料編 1- (6) 「学生定期健康診断用管理者フォローアップ数」に、健診結果で何らかの管理が必要となり本センターでフォローアップを受けた者の人数を示した。前年と比べ、大きな変化はなかった。

資料編 1- (7) に健康診断結果返却および健康診断証明書の発行についての概要を述べた。健康診断結果は各地区の保健管理センター窓口で返却しているがその件数は年々減少している。（昨年/本年の件数；631/379 件）。代わりに 2007 年度から開始した学生健診結果 Web 閲覧（2013 年度からはスマートフォンでもアクセス可能になった）利用者が増えている（昨年/本年の件数；32551/35564 件）。この Web アクセスは一人で複数回閲覧した場合も各回数がカウントされるので、上記人数が必ずしも結果を確認した者の人数を反映するものではないが、結果返却率の向上に大きく貢献していると推察する。なお、奨学金の申請など種々手続きの際に必要な、健康診断を受検したことを証明する証明書の発行はセンター窓口でのみで行っている。本システムの詳細な考察は、2014 年の本年報 p. 5-6 で述べた。 （横山裕一）

2. 教職員定期生活習慣病健康診断

(1) 受診状況

2018年度の慶應義塾全体の受診率は98.1%であり、この3年間は98%台の高い受診率で推移している。職種別受診率は職員が99.7%、教員が96.4%であった。地区別受診率は信濃町地区が100.0%、三田地区が96.6%、日吉地区が95.7%、湘南藤沢地区が93.9%であった。所属学部・研究科別受診率は、医学部、薬学部、看護医療学部の医療系学部が100.0%であった。また、一貫教育校所属教職員の受診率は1名未受診者がおり、99.8%であった。

(2) 生活習慣病健康診断集計

身長・体重、腹囲、視力、聴力、胸部X線検査、血圧、検尿、心電図の有所見者の割合は2017年度と大きな変化はなかった。

血液検査の有所見者の割合は2017年度と大きな変化はなく、血液検査で異常値が認められる割合が高い検査はLDLコレステロールであった。40歳以上でLDLコレステロール値がC判定(160.0mg/dl以上)の割合は男性で14.6%、女性で12.3%であった。

(3) 特定健康診査

40歳以上65歳未満の対象者3,459人(男性1,943人、女性1,516人)の内、受診者は3,277人(94.7%)で、男性1,839人(94.6%)、女性1,438人(94.9%)であった。詳細健診が必要な人(腹囲85cm以上(男性)、90cm以上(女性)かつ追加リスク(血糖、脂質、血圧)すべてに該当する人)は男性485人(27.6%)、女性164人(11.8%)であった。

40歳以上65歳未満のメタボリックシンドロームと診断された人は、検査人数3,246人(男性1,791人、女性1,455人)の内、396人(12.2%)で、男性340人(19.0%)、女性56人(3.8%)であった。2017年度(372人(11.8%) (男性317人(17.8%)、女性55人(4.0%))と比べ、大きな変化はなかった。

(4) その他

健康診断後の管理状況は、面接指示者1,199人に対し、呼出応答があった人が891人(面接592人、他医療機関受診135人、自己管理164人)であった。

(西村知泰)

3. その他の活動等

(1) その他の健康診断

2018 年度は、常時深夜業に従事する者等を対象とする特定業務従事者の健康診断を信濃町地区で 2,130 件実施した。また、電離放射線取扱者、特定化学物質取扱者、有機溶剤取扱者、鉛取扱者、遺伝子組み換え実験業務従事者に対して、特殊健康診断を実施した。電離放射線取扱者、遺伝子組み換え実験業務従事者の特殊健康診断の件数は、教職員を中心に信濃町地区で多く、特定化学物質取扱者、有機溶剤取扱者の特殊健康診断の件数は、学生を中心に矢上地区で多かった。

(2) 各種行事等の救護状況

保健管理センターでは、各種行事(入学式、卒業式、入学試験等)の救護活動を行っている。近年、大学院入学試験の増加に伴い、入学試験の救護回数が増加している。救護件数としては、学部入学試験が一番多く、49 件(日吉本部 40 件、三田分室 9 件)であった。

(3) 特定保健指導

2018 年度の特定保健指導の初回指導は 44 件であり、2017 年度(42 件)と比べ大きな変化はなかった。

(4) 教職員カウンセリング

保健管理センターでは、教職員を対象としたカウンセリングを実施していたが、日吉本部は 2018 年 9 月に、三田分室は 2018 年 6 月に終了した。

(5) その他の活動

応急処置・保健相談等は、処置(外傷の消毒、湿布等の処置、爪きり使用、検温等)が 907 件、ベッド休養が 871 件で、2017 年度(処置 941 件、ベッド休養 882 件)と比べ大きな変化はなかった。保健相談等(受付窓口や電話での相談、投薬・処置・ベッド休養が生じない健康相談、保健指導、病院案内等)が 2017 年度(492 件)に比べ、650 件と増加した。

(西村知泰)

第2. 一貫教育校保健管理業務

1. 小・中学校

(1) 2018年定期健康診断のまとめ(小・中学校)

ア. 保健統計調査

(ア) 身長

幼稚舎6年生男子・女子および横浜初等部5年生女子を除いて、一貫教育小中学校の他のすべての学年において男女ともに全国平均値に比べて高かった。

(イ) 体重

男子は幼稚舎1・2年生を除いて、小学校の他のすべての学年において全国平均値に比べて少なかった。女子は横浜初等部1年生を除いて、小中学校の他のすべての学年において全国平均値に比べて少なかった。

一貫教育校の児童・生徒は、全国平均値と比較して男女ともに身長が高く、特に女子では体重が少ない例年通りの傾向が認められた。

(ウ) 栄養

肥満傾向(医師の視診および肥満度+20%以上)の頻度は、幼稚舎(男2.3%、女0.4%)、横浜初等部(男1.6%、女1.2%)、普通部(男5.9%)、中等部(男5.0%、女2.8%)、湘南藤沢中等部(男4.7%、女1.6%)のいずれも、全国平均値(小学生：男8.0%、女6.8%、中学生：男9.2%、女7.7%)に比べて少ないが、昨年度に比べて増加傾向を認めた。

栄養不良(やせ傾向)(医師の視診および肥満度-20%以下)の頻度は、幼稚舎(男2.3%、女2.1%)、横浜初等部(男2.1%、女1.6%)、普通部(男2.3%)、中等部(男2.8%、女3.8%)、湘南藤沢中等部(男2.3%、女2.0%)において、男子では普通部および湘南藤沢中等部を除いて、女子では横浜初等部および湘南藤沢中等部を除いて、全国平均値(小学生：男1.6%、女1.6%、中学生：男2.4%、女3.4%)に比べて多かった。

(エ) 視力

裸眼視力1.0未満の頻度は、幼稚舎(男29.3%、女34.6%)、横浜初等部(男35.3%、女44.2%)、普通部(男67.7%)、中等部(男67.9%、女64.5%)、湘南藤沢中等部(男66.2%、女76.2%)において、幼稚舎を除いて、一貫教育小中学校では全国平均値(小学生：男30.6%、女37.8%、中学生：男52.4%、女59.9%)より多かった。

(オ) 歯科

未処置歯の保有率は、幼稚舎(男5.1%、女4.9%)、横浜初等部(男16.3%、女14.5%)、普通部(男5.4%)、中等部(男4.5%、女5.6%)、湘南藤沢中等部(男4.7%、女10.2%)のいずれも、全国平均値(小学生：男23.1%、女21.3%、中学生：男15.0%、女15.1%)に比べて少ないが、横浜初等部では昨年度に比べて増加を認めた。歯列矯正者は中等部女子(25.8%)に多かった。

イ. 結核検診

計26人を対象に精密検査(胸部X線撮影)を実施した。受検理由は、BCG未接種(14人)、海外結核高蔓延国での居住歴(12人)が多かった。最終結果は全員異常なしであった。

ウ. 血液検査結果

ウイルス抗体価検査では、流行性耳下腺炎抗体陰性者(小学1年35.5~39.0%、中学1年30.6~49.8%)および水痘ウイルス抗体陰性者(小学1年47.8~50.5%、中学1年13.6~18.4%)が多く、抗体陰性者に対してワクチン接種の推奨をおこなった。

(徳村光昭)

2. 高校

（1）2018 年度定期健康診断のまとめ

ア．保健統計調査

身長は、高校の男子、女子ともに、全ての学年において、全国平均値と比較し高かった。体重は、高校の男子は全国平均値とほぼ同等であったが、高校の女子では全ての学年において全国平均値以下であった。

鼻および副鼻腔疾患・異常ありの生徒が昨年度に比べ多かったが、学校生活上支障を来す疾患・異常ありの生徒はいなかった。

イ．生徒定期健康診断受診・管理状況

高校の受診率はほぼ 100%であった。検尿、血圧、血液検査、胸部 X 線検査の再検査対象者の割合は、昨年度と比較し大きな変化はなかった。

ウ．血液検査結果

昨年度と同様に、高等学校、志木高等学校、湘南藤沢高等部男子においては、尿酸高値の生徒の割合が 17.0%、12.5%、13.6%と高かった。各校におけるその他の異常値の割合は、昨年度と比較し大きな変化はなかった。

（2）2018 年度保健室利用状況

保健室利用状況は昨年度と同様に、生徒数の多い高等学校が年間来室者数 1,700 人、一日あたりの平均来室者数 11.6 人で一番多かったが、一人あたりの平均年間来室回数は 0.7 回で一番少なかった。また、インフルエンザによる学級閉鎖が、高等学校で 1 件、志木高等学校で 1 件あった。

（西村知泰）

第3. 感染症対策

保健管理センター（本センター）が行う感染症対策の詳細は2014年の本年報 p.13-16 に示した。まだ年報記録に纏められない活動も行っているが、本項は本年度の記録編に掲載された事項の説明に留める。

結核接触者健診（資料編-1）では、感染症法第17条に従い、結核患者に不慮の濃厚接触した者の結核感染の有無を調べる。主な対象は医療従事者で、結核菌に対する Interferon-Gammareleaseassay (IGRA) および胸部レントゲン写真撮影 (CXp) を行う。2018年度は新規が7件あり、過去からの継続と併せ計10件、381人を管理した。対象者はすべて信濃町キャンパス（本学病院キャンパス）所属者で、うち2例は他医療機関での接触例であった。検査陽性者は、①結核症重点観察（6月毎のCXp撮影）、②潜在性結核感染症治療、または、③医療機関紹介となるが、本年度はそれぞれ38, 2, 0人であった（表1-(1)）。

結核スクリーニング（資料編-2）では結核患者への濃厚接触歴が無くとも、その高リスク者、非結核感染であることの証明が必要な者にIGRAを行う。表2-(1)に対象者を示す。2018年度は1,137人が受検し、陽性18人、判定保留39人、判定不可0人であった（表2-(2)）。陽性者、判定保留者のほとんどは信濃町キャンパス所属者であった。事後措置として、48人に再検査、15人に重点観察、7人に潜在性結核感染症治療が施され、1人が医療機関紹介となった（表2-(3)）。事後措置統計は、再検査で陽性になり別の措置が施された者や重点観察から治療になるケースも含まれているため、記載人数は延べ人数である。

本センターはウイルス性疾患（麻疹・ムンプス・風疹・水痘;MMRV）対策としてそれらの抗体検査（EIA法、一部HI法）を行う（資料編-3）。対象は、大学医療系学部学生、一貫教育校生徒、信濃町地区に異動になった教職員である。例年通り、ムンプス、水痘の抗体陽性率が低い群が散見された。医療系学部生、大学病院勤務者に対しては日本環境感染学会の指針を参考に、高い陽性基準値が設定されている（表3-(3)）。抗体価低値の者へはワクチン接種を勧奨する。一方、同指針は、各ワクチンを2回接種すれば、それぞれの追加接種不要ともしており、ワクチン勧奨を受けた者すべてが接種を受けるわけではない。

本センターが行うワクチン接種を資料編-4 に示した。B型肝炎ウイルス（HBV）感染予防の目的で表4-(1)-ア) に示す対象にHBVワクチン接種を行う。事前検査でHBs抗原抗体とも陰性の者が基礎接種の対象で、約6月かけて3回のワクチンを接種し、最終接種の約1月後のHBs抗体価が10mIU/mlを超えれば陽転とする。非陽転者へは、追加接種を行う。過去に本ワクチン接種を受けたが時間経過で抗体が陰性化した者は、その者の免疫記憶の残存を考慮し、まず1回の追加接種を行い、陽転すればワクチン接種終了とする。2018年度は本塾全体で471人の申込みがあり、1,179本のワクチン接種を行った（表4-(1)-イ、昨年度は461人、1,257本）。報告された副作用は17件（1.4%）で、例年並みの頻度であった。

本センターは感染制御部との協力で、信濃町キャンパス対象者（表4-(2)）にインフルエンザワクチン接種を行う。2018年度は3,629人に接種した（2017年度は3,680人）。

病院勤務者は血液曝露を被るリスクを有するが、本センターは、その対応、即ち、曝露後のHBV、C型肝炎（HCV）、梅毒、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）対策を行う（資料編-5）。曝露源が特定され、その者の許可があれば、その者の4種感染症状態および輸血歴を調べ、被曝露者の免疫状態、曝露状況の情報と併せ、対策を決定する。曝露源が特定できない場合や特定できても採血ができない場合は、後者の情報のみから対策を決定する。HBV対策はヘブスブリン1000単位静注、HIV対策、梅毒対策は表中の記載どおり、HCVへの特定の対策はない。フォローアップ（F/U）は、肝機能検査、HBV抗原抗体、HCV抗体、HIV抗体、梅毒反応の中から必要と判断されたものを行い、F/U期間は表中の記載どおりである。2018年度は81件の対応を行い、HBV対策を1人、HIV対策を1人、梅毒対策を5人、血液のF/Uを45人に行った。

医療系学部学生は学外実習時に実習先から資料編-6 に示す腸管感染症保菌者でないことの証明を要求されることがあり、本センターではその検査も行う。本年度の対象者237人に陽性者はいなかった。

（横山裕一）

第4．環境衛生業務

学校における環境衛生管理については、学校保健安全法（2009年4月1日施行）の規定に基づき、「学校環境衛生基準」が定められている。施行後5年を経過し、環境衛生に関する新たな知見や児童生徒等の学校環境の変化を踏まえて検討が行われ、一部改正された（2018年4月1日施行）。これらの基準に基づいて、キャンパス衛生管理者、保健管理センター医師および保健師が、校内巡視および環境測定を行った。

1. 実施項目

(1) 換気及び保温等および空気清浄度

- | | |
|----------|-------------------------------|
| ア. 換気 | キ. 二酸化炭素 |
| イ. 湿度 | ク. 揮発性有機化合物 ^{※1} |
| ウ. 相対湿度 | ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, |
| エ. 浮遊粉じん | パラジクロロベンゼン, エチルベンゼン, |
| オ. 気流 | スチレン |
| カ. 一酸化炭素 | ケ. ダニまたはダニアレルゲン ^{※2} |

(2) 採光

- | | |
|-------|---------|
| ア. 照度 | イ. まぶしさ |
|-------|---------|

(3) 騒音

- | |
|----------|
| ア. 騒音レベル |
|----------|

(4) 校内巡視

- ※1 2006年度より管財部から業務移行された。
 ※2 2010年度より実施

2. 実施日程（大学・一貫教育校の各「年間主要業務」の頁を参照）

前期6～8月，後期11～1月に実施（年2回）

3. 結果・事後措置概要

(1) 温熱環境

季節により、湿度が基準値を外れる教室が散見された。教室使用时には換気扇の稼働、換気空調の電源を入れる等教室内の環境を保つよう指導した。

(2) 換気・空気清浄度

二酸化炭素濃度が基準値を上回る教室があり、換気扇を適切に使用するよう指導した。換気扇設備のない教室や、教室の広さに対して在室人数が多い場合は、窓を開けて換気するよう指導を行った。

(3) 照度・まぶしさ

おおむね問題はなかった。

(4) 騒音

一部キャンパス内工事、幹線道路沿いの立地等の理由により、窓解放時に基準値を上回る教室があった。

(5) ダニまたはダニアレルゲン

ダニ数が基準値を超えた教室があり，清掃の徹底を指導した。

(6) 揮発性有機化合物

一部基準値を超える教室があったため，窓の開放や換気扇の稼働による換気の励行を指導した。

(7) その他

荷物や器材の積み上げ，ゴミや私物の散乱が認められる教室があるため，教室環境の美化および整理整頓に努め，緊急時避難経路確保を行うよう指導した。

食堂の調査

学校保健安全法に基づいて，食堂環境衛生検査ならびに食堂微生物検査を行った。

1. 厨房巡視・聞き取り調査

キャンパス衛生管理者，保健管理センター医師および保健師が，担当地区の食堂を巡視し，食堂施設の状況，設備およびその取扱い状況，食品の取り扱いを含む調理場内の衛生状況，従事者の衛生管理状況，検食の状況等を調査した。

調理場の配管，換気扇等にほこりやカビなどの汚れ，水漏れや排水不良が認められた地区があり，定期的な清掃と速やかな修繕を指導した。また，避難経路確保のために整理整頓を指導した。

2. 微生物検査

冷蔵庫，まな板，作業者手指，台ふきん，直接喫食食品，飲料水，空中浮遊菌等

(一般細菌，大腸菌，黄色ブドウ球菌，サルモネラ，腸炎ビブリオの培養検査)の検査を行った。

- (1) ふき取り検査で多くの食堂施設から一般細菌が検出され，施設によっては大腸菌，黄色ブドウ球菌も検出された。汚染された手指から食材への二次汚染の可能性がある為，手洗い方法を見直して，手指の清潔保持の徹底に努めるよう指導した。
- (2) 台ふきんでは多くの食堂施設で大腸菌群および一般細菌が検出された。台ふきんの頻回の交換と消毒，またふきんの用途の明確な区別を徹底する必要について指導した。
- (3) 複数の施設で加熱した食品から一般細菌が検出された。加熱によりほとんどの一般細菌は死滅するはずであり，調理後に一般細菌が付着したものと思われる。手洗いが不十分な手，または細菌が繁殖した台ふきんに触れた手で菜箸などの器具やポリ手袋等を用いて皿への盛り付けを行ったなどの可能性が考えられる。清潔保持の徹底を指導した。
- (4) 複数の施設で空中浮遊菌の数が基準値を超えており，空調設備や換気扇の清掃・点検を適宜行い，空気環境の管理を行うよう指導した。

(武田彩乃)

第5．産業保健活動

労働安全衛生法及び労働安全衛生規則に基づき、次の活動を行っている。カッコ内は該当法令。

1. 労働衛生管理体制（労働安全衛生法第12条及び第13条）

慶應義塾では、事業場として大きく7地区（日吉、三田、芝共立、湘南藤沢、矢上、信濃町、志木）に分け、各地区に統括安全衛生管理者、産業医、衛生管理者を置き、教職員の健康管理等を実施している。

2. 衛生委員会（労働安全衛生法第18条）

7地区に衛生委員会が設置され、教職員の健康障害防止の基本対策などを調査・審議している。保健管理センターは各地区の登録産業医と衛生管理責任者等が産業保健の専門家として参加している。

3. 職場巡視（労働安全衛生規則第15条）

衛生委員会の活動の一環として7地区において、職場巡視を実施し、職場における安全確保状況、換気状況等を調査し、教職員の健康障害を防止するための必要な措置を講じるようにしている。保健管理センターのメンバーは施設管理を担当する管財部門のメンバーとともに職場巡視のメンバーとして参加している。

4. 就業判定（労働安全衛生法第66条第1, 2, 3項）

雇入れ時の健康診断、定期健康診断を実施している。雇入れ時の健康診断受診者数、定期健康診断受診者数はともに信濃町地区が最も多い。また信濃町地区では、常時深夜業に従事する者等を対象とする特定業務従事者の健康診断も実施している。電離放射線取扱者、特定化学物質取扱者、有機溶剤取扱者、鉛取扱者、遺伝子組み換え実験業務従事者に対して、特殊健康診断を実施している。特殊健康診断受診者数は信濃町地区が一番多く、次に矢上地区が多い。

5. 産業医面接（労働安全衛生規則第14条）

職場の上長や本人からの申し出があった場合と、長時間労働を行った教職員に対して、産業医による面接を行っている。具体的には、内科疾患または精神科疾患による休職後復職者、過重労働者、メンタル不調者等を対象に実施し、必要に応じて、総括安全衛生管理者に対して勧告し、又は衛生管理者に対して指導し、若しくは助言を行っている。

6. 労働安全衛生教育（労働安全衛生規則第59条）

教職員に対し、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を実施している。具体的には、電離放射線使用の注意点、有機溶剤使用の注意点についてのリーフレット配布等を行っている。

7. 労働者の心の健康保持（労働安全衛生法第66条）

職業性ストレス簡易調査票（57項目）によるストレスチェックを実施し、教職員の心の健康保持を図っている。

（西村知泰）

第6. 教育

1. 大学講義

保健管理センター設置講座では、非医療系学部の学生を対象として生活習慣病、感染症、薬物・飲酒の問題、メンタルの問題等、現代社会における疾病について、保健管理センターの各専門医が通年で4時限から14時限を分担し、オムニバス形式で講義を行っている。現代社会と深く関わりのある代表的な疾病について幅広い知識を得ることを目的とする。将来、Health care 関連企業に就職する学生の入門講義になるばかりでなく、健康的な生活を理解し、実践するための保健教育を目的としている。

また、体育研究所設置講座、医学部設置講座、看護医療学部設置講座、通信教育課程、学生総合センター設置科目においても講義を行っている。

2. 予防医療センター

2012年8月1日より慶應義塾大学病院予防医療センターが開設され、保健管理センター専任医師は人間ドック受診者の当日結果説明および簡単な生活指導を原則毎日交代で担当している。

3. 集団保健衛生教育

(1) 衛生講習会

一貫教育校及び大学における文化祭、イベント等で、食品を扱う模擬店を出店する際には、保健管理センターが細菌性食中毒予防のため、①食中毒について②食材の取り扱い方③手洗いの方法④速乾性擦式手指消毒薬の使用法等について指導を行っている。また、酒類を提供する予定のある大学生に対しては飲酒についての注意喚起も行っている。

(2) BLS（一次救命処置；Basic Life Support）講習会、AED（自動対外式除細動器；Automated External Defibrillator）講習会

慶應義塾に所属している学生、教職員および委託職員に対して救急蘇生法とAEDの使用法についての説明、指導を行っている。集団指導を含めて2018年度の受講者数は約1,300人である。

(3) 小児・若年者の生活習慣

小児・若年者の肥満、高血圧などの生活習慣病は高率に成人の生活習慣病に移行することが知られている。そのため小児・若年者の生活習慣の修正は重要であり、一貫教育校では生活習慣是正のためのセミナーを行っている。また、生徒・保護者・教員を対象に精巣捻転症・熱中症・インフルエンザ等の感染症・心の問題・スポーツ障害等に関する講演会を行っている。

(武田彩乃)

第7. 研究

保健管理センターは、慶應義塾の研究所附属機関に位置づけられ、大学・大学院生、小中高一貫教育校児童・生徒、教職員の健康管理および感染症等の管理業務に加えて、健康の保持増進のための教育や研究活動を担当している。

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

- ア The 27th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (2018年9月23日, 北京)において、「Dual vaccine based on angiotensin II type 1 receptor and pneumococcal surface protein A simultaneously induced therapeutically potent antibodies for the attenuation of hypertension and pneumococcal infection in rodents」(筆頭演者：畔上達彦)が、Asian-Pacific Society of Hypertension Young Investigator Fellowships Awardを受賞した。
- イ 第59回日本人間ドック学会学術大会(2018年8月30日, 新潟)において、「職域健診において血清高分子量アディポネクチン濃度低値は5年後の耐糖能悪化と関連する」(筆頭演者：広瀬 寛)が、優秀口演発表賞を受賞した。
- ウ 第41回日本小児遺伝学会学術集会(2019年1月12日, 名古屋)において、「Integrated analysis of RNA-seq and exome data in 179 subjects unravels frequent protein-truncating splicing events out of “missense” or “silent” mutations」(筆頭演者：山田茉未子)が、優秀演題賞を受賞した。

(2) 著書・論文・学会発表

2018年度に保健管理センター教職員が執筆した著書は6編、筆頭著者で発表した論文は英文誌5編、和文誌25編であった。保健管理センターの機関誌である「慶應保健研究 第36巻第1号」(2018年8月31日発行)には、学校保健や健康管理等に関する原著論文4編、総説1編、解説6編が掲載された。2018年度に保健管理センター教職員が筆頭演者となった学会発表は、国内学会33題、国際学会3題であった。主な学会として、第56回全国大学保健管理研究集会(2018年10月, 東京)では健康管理や健康診断に関する一般演題5題、第65回日本学校保健学会学術大会(2018年11月, 大分)では一般演題3題が発表された。

2. 保健管理センター研究会

2018年度は5回開催し、禁煙指導に関する講習会(講師：さいたま市立病院呼吸器内科 舘野博喜)(2019年1月21日)、保健管理センター教職員による研究発表、第56回全国大学保健管理研究集会予演会、第65回日本学校保健学会学術大会予演会などを行った。

3. 保健管理センター研修会

「スポーツ障害対策のトピック：脳震盪」に関する研修会を開催した(講師：スポーツ医学研究センター 准教授 石田浩之)(2019年3月27日)。

4. 部門ブロック別研修

外部講師として三髯 明氏(中央労働災害防止協会健康快適推進部 研修支援センター所長)を招聘して、「ストレスチェック結果を活用したセルフケアセミナー」を開催した(2019年2月25日)。

(徳村光昭)

(第8. 会議, 第9. 関連資料は資料編のみ)

第10. 慶應義塾診療所

日吉・三田・湘南藤沢・矢上診療所受診者数は合計で、学生 1,449 件、教職員他 2,114 件であり、いずれも昨年と比較し大きな変化はなかった。

このうち、精神科は矢上診療所を除く 3 診療所で診療を行っている。その内訳は、学生 600 件、教職員他 126 件であった。教職員他はやや減る傾向にあるが、学生は 3 年連続して増加している。

(今村江里子)

Ⅱ 資料編 第7. 研究

1. 保健管理センター教職員研究業績
2. 保健管理センター研究会
3. 保健管理センター研修会
4. 部門ブロック別研修

1. 保健管理センター教職員研究業績

(1) 受賞

畔上達彦

1) The 27th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension Asian-Pacific Society of Hypertension Young Investigator Fellowships Award

受賞理由: Dual vaccine based on angiotensin II type 1 receptor and pneumococcal surface protein A simultaneously induced therapeutically potent antibodies for the attenuation of hypertension and pneumococcal infection in rodents

受賞日: 2018年9月23日

広瀬寛

1) 第59回日本人間ドック学会学術大会優秀口演発表賞

受賞理由: 職域健診において血清高分子量アディポネクチン濃度低値は5年後の耐糖能悪化と関連する

受賞日: 2018年8月30日

山田菜未子

1) 第41回日本小児遺伝学会学術集会優秀演題賞

受賞理由: Integrated analysis of RNA-seq and exome data in 179 subjects unravels frequent protein-truncating splicing events out of “missense” or “silent” mutations

受賞日: 2019年1月12日

(2) 著書・翻訳書・論文・学会発表

ア 著書

1) 畔上達彦, 井ノ口美香子, 内田敬子, 河邊博史, 齊藤郁夫, 武田彩乃, 徳村光昭, 南里清一郎, 西村知泰, 西村由貴, 広瀬寛, 牧野伸司, 森正明, 康井洋介, 横山裕一, 和井内由充子: 保健衛生(第4版). 慶應義塾大学出版会, 2018

2) 井ノ口美香子: たんぱく質. 学童期・思春期. やせ(学童期・思春期). 身長・体重・頭囲・成長曲線. 日本人の食事摂取基準(2015年版)データ. 小児臨床栄養学改訂第2版. 診断と治療社, 29-32, 88-91, 126-128, 452-454, 464-479, 2018

3) 内田敬子, 他: 胎児診断に役立つ心臓の発生. 胎児心エコーのすべて スクリーニング・精査・治療・そして家族支援. メジカルビュー社, 2-12, 2017

4) 内田敬子: 摂食障害, 乳幼児・小児疾患. 新スタンダード栄養・食物シリーズ12 臨床栄養学. 東京化学同人社, 197-204, 301-309, 2017

5) 内田敬子, 他: 発生, 胎生学. 小児・成育循環器学. 診断と治療社, 17-24, 2017

6) 南里清一郎, 當仲香, 他: インフルエンザの出席停止基準・期間と学級閉鎖の判断はどのようにすべきですか?. インフルエンザ診療ガイド2018-19. 日本医事新報社, 201-205, 2018

イ 論文

1) Hishikawa A, Azegami T, et al.: Decreased KAT5 Expression Impairs DNA Repair and Induces Altered DNA Methylation in Kidney Podocytes. Cell Rep, 26(5): 1318-1332. e4, 2019

2) Kawabe H, Azegami T, Takeda A, Hirose H, et al.: Features and preventive measures of hypertension in the young (Review). Hypertens Res, doi:10.1038/s41440-019-0229-3, 2019

3) Kikuchi R, Yamada-Goto N, et al.: The impact of laparoscopic sleeve gastrectomy with duodenojejunal bypass on intestinal microbiota differs from that of laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with obesity. Clin Drug Investig, 38(6): 545-552, 2018

4) Kimura M, Makino S, et al.: A tale of two sisters with hypertrophic cardiomyopathy and recurrent embolism: When is the optimal timing of the intervention for left atrial appendage?. Heart & Lung, doi.org/10.1016/j.hrtlng.2018.08.010, 2018

5) Mitsuishi Y, Murai-Takeda A, et al.: Epidermal growth factor receptor/extracellular signal-regulated kinase pathway enhances mineralocorticoid receptor transcriptional activity. through protein stabilization. Mol Cell Endocrinol, 473: 89-99, 2018

- 6) Morimoto K, Nishimura T, et al. : Clinico-microbiological analysis of 121 patients with pulmonary Mycobacteroides abscessus complex disease in Japan - An NTM-JRC study with RIT. *Respir Med*, 145 : 14-20, 2018
- 7) Nakamura T, Murai-Takeda A, et al. : Intestinal Mineralocorticoid Receptor Contributes to Epithelial Sodium Channel-Mediated Intestinal Sodium Absorption and Blood Pressure Regulation. *J Am Heart Assoc*, 7(13), 2018
- 8) Nishihama N, Makino S, et al. : Identification of Fat Storage-Inducing Transmembrane Proteins 1 and 2 as Putative Therapeutic Targets for Heart Failure by Integrated Analysis of Proteome and Transcriptome. *Journal of Proteomics & Bioinformatics*, volume11(9) : 173-182, 2018
- 9) Nishimura T, Mori M, et al. : Estimating latent tuberculosis infection using interferon- γ release assay, *Japan. Emerg Infect Dis*, 24(11) : 2111-2113, 2018
- 10) Nishihama N, Makino S, et al. : Mice lacking fat storage-inducing transmembrane protein 2 show improved profiles upon pressure overload-induced heart failure. *Heliyon* 5 (2019) e01292. doi: 10.1016/j.heliyon.2019.e01292
- 11) Nishimura T, Mori M, et al. : Risk of tuberculosis infection among health care workers and nursing students in Japan. *J Infect Chemother*, 24(11) : 921-924, 2018
- 12) Oda M, Makino S, et al. : Selective modulation of local linkages between active transcription and oxidative demethylation activity shapes cardiomyocyte-specific gene-body epigenetic status in mice. *BMC Genomics*, doi.org/10.1186/s12864-018-4752-4, 2018
- 13) Shibata A, Uchida K, et al. : Type 2 inositol 1,4,5-trisphosphate receptor inhibits the progression of pulmonary arterial hypertension via calcium signaling and apoptosis. *Heart and Vessels*, doi: 10.1007/s00380-018-1304-4, 2018
- 14) Suzuki S, Nishimura T, et al. : Aspergillus precipitating antibody in patients with Mycobacterium avium complex lung disease. *Respir Med*, 138 : 1-6, 2018
- 15) Takayama M, Hirose H, et al. : Sarcopenic obesity is associated with osteopenia among Japanese elderly women: A cross-sectional study from comprehensive health checkups. *Health Evaluation and Promotion*, 45(4) : 573-578, 2018
- 16) Tanikawa C, Hirose H, et al. : A GWAS identifies gastric cancer susceptibility loci at 12q24.11-12 and 20q11.21. *Cancer Sci*, 109(12) : 4015-4024, 2018
- 17) Yagi K, Nishimura T, et al. : Association between six-minute walk test parameters and the health-related quality of life in patients with pulmonary Mycobacterium avium complex disease. *BMC Pulm Med*, 18(1) : 114, 2018
- 18) Yasui Y, Mitsui T, Nishimura T, Uchida K, Inokuchi M, Mori M, Tokumura M, et al. : School-age children and adolescents suspected of having been to be infected with pertussis in Japan. *Vaccine*, 36(20) : 2910-2915, 2018
- 19) Yamada M, et al. : SATB2-associated Syndrome in Patients from Japan: Linguistic Profiles. *Am J Med Genet A*, doi:10.1002/ajmg.a.61114, 2019
- 20) Yoshida Y, Tokumura M, et al. : Chronotropic incompetence to exercise in anorexia nervosa patients during the body-weight recovery phase as an index of insufficient treatment. *Heart and Vessels*, s00380-018-1282-6, 2018
- 21) 畔上達彦, 他 : 腎間質線維化の病理学的定量評価. *腎臓内科・泌尿器科*, 7(4) : 363-367, 2018
- 22) 井ノ口美香子 : 学校健康診断の現状と課題. *教育と医学*, 66 (6) : 524-532, 2018
- 23) 井ノ口美香子 : 成長障害(低身長)を伴う愛情遮断症候群. *日本臨床別冊内分泌症候群 (第3版) I*, 113-116, 2018
- 24) 井ノ口美香子 : やせ. *小児内科*, 50(増刊号) : 102-103, 2018
- 25) 井ノ口美香子 : 小児肥満の臨床実践ガイドライン 「米国のガイドライン」と「日本のガイドライン」の違い. *慶應保健研究*, 36(1) : 61-66, 2018
- 26) 内田敬子 : わが国における小児の血圧測定. *慶應保健研究*, 36(1) : 67-72, 2018
- 27) 齋藤圭美, 澁谷麻由美, 清奈帆美, 高橋綾, 山岸あや, 外山千鈴, 横山裕一, 森正明 : 学校健診におけるヘリコバクターピロリ菌 (HP) 抗体測定から見えてきた 3 つの事象. *CAMPUS HEALTH*, 56(1) : 273-275, 2019

- 28) 武田彩乃, 後藤伸子, 畔上達彦, 西村知泰, 牧野伸司, 広瀬寛, 和井内由充子, 横山裕一, 森正明, 他: 青年期の男女における生活習慣病発症に出生時体重が及ぼす影響. CAMPUS HEALTH, 56(1) : 92-93, 2019
- 29) 佐藤幸美子, 西村知泰, 藤ひとみ, 牟田口絵里, 中村清美, 山岸あや, 広瀬寛, 徳村光昭, 森正明, 河邊博史: 高等学校における脳しんとうの管理. 慶應保健研究, 36(1) : 33-38, 2018
- 30) 當仲香: 健康の考え方の変遷とこれからの保健指導. 慶應保健研究, 36(1) : 73-77, 2018
- 31) 當仲香, 澁谷麻由美, 齋藤圭美, 松本可愛, 清奈帆美, 高橋綾, 和井内由充子, 牧野伸司, 広瀬寛, 西村知泰, 横山裕一, 森正明: 学生定期健康診断での循環器, 呼吸器関連問診の意義. CAMPUS HEALTH, 56(1) : 108-109, 2019
- 32) 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田敬子, 康井洋介, 三井俊賢, 有馬ふじ代: 小学生, 中学生, 高校生における川崎病既往者増加の実態と対策. 慶應保健研究, 36(1) : 13-19, 2018
- 33) 徳村光昭: 学校心臓検診結果の変化と今後の課題: 学校心臓検診の現状. 小学保健ニュース, 1163 : 10-11, 2018
- 34) 徳村光昭: 学校心臓検診結果の変化と今後の課題: 川崎病既往者増加の実態と心臓後遺症対策. 小学保健ニュース, 1166 : 10-11, 2018
- 35) 中村清美, 西村知泰, 高橋綾, 福富千尋, 佐藤幸美子, 村上桃子, 齋藤圭美, 外山千鈴, 弦巻美保, 横山裕一, 森正明: 本学看護学生における結核感染リスクの評価. CAMPUS HEALTH, 56(1) : 283-285, 2019
- 36) 西村知泰, 森正明: 結核検診のルールと IGRA の活用について実践と課題. CAMPUS HEALTH, 55(2) : 16-19, 2018
- 37) 広瀬寛, 清奈帆美, 當仲香, 森正明, 河邊博史: 健康診断や病院のドックにおける血清アディポネクチン濃度測定の意義. 慶應保健研究, 36(1) : 7-12, 2018
- 38) 松本可愛, 澁谷麻由美, 高橋綾, 齋藤圭美, 横山裕一, 森正明: 薬学病院実習に参加する学生の流行性ウイルスに関する「感染症記録」配布による感染症情報自己管理の試み. CAMPUS HEALTH, 56(1) : 260-262, 2019
- 39) 森正明, 西村知泰: 学生健康診断における胸部 X 線検査マニュアルの解説. 慶應保健研究, 36(1) : 39-45, 2018
- 40) 康井洋介, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田敬子, 有馬ふじ代, 三井俊賢, 外山千鈴, 木村奈々, 久根木康子, 佐藤幸美子, 高山昌子: 小中学校における学校感染症対策としての学級閉鎖の実態-2012 年度~2016 年度-. 慶應保健研究, 36(1) : 27-31, 2018

- 41) 康井洋介: 命にかかわることもある食物アレルギー. 高校保健ニュース, 644: 1, 2018
- 42) 横山裕一: デュルケームの集団的意識による個人行動の拘束の理論および自殺論の解説—飲酒問題の理解のための新しい手引きとして—. 慶應保健研究, 36(1) : 47-51, 2018
- 43) 横山裕一: デュルケームの集団的意識による個人行動の拘束理論と自殺論モデルを用いた日本における新しい急性アルコール乱用の理解—大学における飲酒教育の新機軸の構築—. 慶應保健研究, 36(1) : 53-60, 2018
- 44) 横山裕一: 感染性胃腸炎の診断と治療. 呼吸器内科, 34(4) : 395-402, 2018
- 45) 和井内由充子, 牧野伸司: 川崎病の既往のある大学生の健康管理. 慶應保健研究, 36(1) : 21-25, 2018

ウ 学会発表

- 1) Azegami T, et al : Dual vaccine based on angiotensin II type 1 receptor and pneumococcal surface protein A simultaneously induced therapeutically potent antibodies for the attenuation of hypertension and pneumococcal infection in rodents The 27th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension 2018
- 2) 井ノ口美香子, 他: 小児期発症神経性食欲不振症における無月経後初回月経の発来に関連する因子の検討 第 52 回日本小児内分泌学会, 2018
- 3) 井ノ口美香子, 他: 日本人小児における下肢長, 下肢長身長比基準値の作成 第 29 回日本成長学会, 2018
- 4) 井ノ口美香子: 神経性食欲不振症の内分泌病態 第 23 回小児内分泌専門セミナー, 2018
- 5) 井ノ口美香子: 思春期のやせ 第 13 回子どもの食育を考えるフォーラム, 2019
- 6) 井ノ口美香子: やせ-今改めて考えたい栄養の重要性— 両毛地区小児科講演会, 2019
- 7) 入江潤一郎, 後藤伸子, 他: 管理栄養士と医師の連携で高度肥満患者を支える 身体的・心理社会的難渋例に対する栄養管理 減量をもたらす食事療法に対する期待が大きい肥満症の一例 第 36 回日本肥満症治療学会学術集会 2018
- 8) 内田敬子: これだけはおさえよう こどもの心臓病につながるこんな訴えこんな症状 第 2 回学んで教えるこどもの命 PH Japan プロジェクト 2019

- 9) 柏木和弘, 広瀬寛, 他: ドック受診者での膝
 囊胞性病変検出率と上腹部超音波での検出低
 下に関与する要因の検討 第 59 回日本人間ド
 ック学会, 2018
- 10) 木村奈々, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田
 敬子, 康井洋介, 有馬ふじ代, 山田茉未子: 小
 学校における学校感染症対策の実際 第 65 回
 日本学校保健学会学術大会 2018
- 11) 後藤伸子, 他: カウンセリング中断後, チ
 ーム医療により減量手術後リバウンドを乗り
 越えつつある症例 日本糖尿病医療学会第 2
 回関東地方会 2019
- 12) 後藤伸子, 他: 患者アンケートから探る肥
 満症チーム医療治療支援の在り方 第 36 回日
 本肥満症治療学会学術集会 2018
- 13) 後藤伸子, 他: 認知行動療法による心理的
 支援を取り入れた肥満症チーム医療の取り組
 み 第 61 回糖尿病学会年次学術集会 2018
- 14) 齋藤圭美, 澁谷麻由美, 清奈帆美, 高橋綾,
山岸あや, 外山千鈴, 横山裕一, 森正明: 学校
 健診におけるヘリコバクテリウム (HP) 抗体
 測定から見えてきた 3 つの事象 第 56 回全国
 大学保健管理研究集会 2018
- 15) 鈴木翔二, 西村知泰, 他: アスペルギルス
 沈降抗体陽性である肺 Mycobacterium avium
 complex 症患者の臨床的特徴 第 58 回日本呼吸
 器学会学術講演会 2018
- 16) 曾根田瞬, 井ノ口美香子, 他: 健常男子に
 おける前思春期から成人身長までの身長 SD ス
 コアの変化に関与する臨床因子の検討 第 29
 回日本成長学会, 2018
- 17) 武田彩乃, 後藤伸子, 畔上達彦, 西村知泰,
牧野伸司, 広瀬寛, 和井内由充子, 横山裕一,
森正明, 他: 青年期の男女における生活習慣病
 発症に出生時体重が及ぼす影響 第 56 回全国
 大学保健管理研究集会 2018
- 18) 田中敏章, 井ノ口美香子, 他: 健常男子に
 おける成長学的な思春期開始の標準値の作成
 と成人身長の縦断的解析 第 29 回日本成長学
 会, 2018
- 19) 當仲香, 澁谷麻由美, 齋藤圭美, 松本可愛,
清奈帆美, 高橋綾, 和井内由充子, 牧野伸司,
広瀬寛, 西村知泰, 横山裕一, 森正明: 学生定
 期健康診断での循環器, 呼吸器関連問診の意義
 第 56 回全国大学保健管理研究集会 2018
- 20) 内藤 真規子, 武田 彩乃, 他: 左副腎腫瘍と
 の鑑別を要した胃憩室を伴う原発性アルドス
 テロン症の一例 第 41 回日本高血圧学会総会
 2018
- 21) 中村清美, 西村知泰, 高橋綾, 福富千尋,
佐藤幸美子, 村上桃子, 齋藤圭美, 外山千鈴,
弦巻 美保, 横山裕一, 森正明: 本学看護学生
 における結核感染リスクの評価 第 56 回全国
 大学保健管理研究集会 2018
- 22) 西村知泰: 肺 MAC 症の新規検査法 第 101
 回日本細菌学会関東支部総会 2018
- 23) 西村由貴: 一般病院における成人期 ADHD の
 治療について 茨城県成人期 ADHD 地域連携研
 究会 2018
- 24) 西村由貴: 認知症の診断と治療—せん妄に
 対する使用経験 常陸大宮認知症地域連携研
 究会 2018
- 25) 西村由貴: 認知症周辺症状による介護負担
 の軽減を目指して 第 3 回認知症と周辺症状を
 考える会 2019
- 26) 伴英子, 康井洋介, 徳村光昭, 井ノ口美香
 子, 内田敬子, 有馬ふじ代, 山田茉未子: 神奈
 川県私立一貫校の水痘ワクチン接種と抗体保
 有状況から考える定期接種開始後の問題点
 第 50 回日本小児感染症学会 2018
- 27) Hishikawa A, Azegami T, et al: KAT5 plays
 a key role in DNA damage repair and
 epigenetic regulation in kidney podocytes
 The 27th Scientific Meeting of the
 International Society of Hypertension 2018
- 28) 菱川彰人, 畔上達彦, 他: DNA 修復因子 KAT5
 はポドサイトの形質維持に必須である 第 61
 回日本腎臓学会学術総会 2018
- 29) 菱川彰人, 畔上達彦, 他: DNA 修復因子 KAT5
 は腎糸球体ポドサイトの形質維持に必須であ
 り、その発現低下は糖尿病性腎症の病態に関与
 する 第 41 回日本高血圧学会総会 2018
- 30) 菱川彰人, 畔上達彦, 他: DNA 修復因子 KAT5
 はポドサイトの形質維持に必須であり、糖尿病
 性腎症の新規治療標的となりうる 第 9 回腎不
 全研究会 2018
- 31) Hirose H, Kawabe H, et al.: Visceral fat
 area, insulin resistance index and alcohol
 intake were related to blood pressure status
 in comprehensive health checkup. The 27th
 Scientific Meeting of the International
 Society of Hypertension 2018
- 32) 広瀬寛, 森正明, 河邊博史: 職域健診にお
 ける IGT や糖尿病発症予測の可能性: 血清高分
 子量アディポネクチン濃度低値は 5 年後の耐糖
 能悪化と関連する. 第 61 回日本糖尿病学会,
 2018
- 33) 広瀬寛, 森正明, 河邊博史: 高分子量ア
 ディポネクチン濃度低値は 5 年後の耐糖能悪化と
 関連する: 職域健診における検討. 第 18 回日
 本抗加齢医学会, 2018

- 34) 広瀬寛, 森正明, 他: 職域健診において、血清高分子量アディポネクチン濃度低値は5年後の耐糖能悪化と関連する (プレナリーセッション). 第59回日本人間ドック学会, 2018
- 35) 広瀬寛, 河邊博史, 森正明: 職域健診における血清高分子量アディポネクチン濃度の測定意義. 第28回日本産業衛生学会全国協議会, 2018
- 36) 広瀬寛, 後藤伸子, 森正明: 血清アディポネクチン濃度測定の意義—教職員健診での検討—. 第47回日本総合健診医学会, 2019
- 37) 堀澤栞里, 後藤伸子, 他: 肥満症チーム医療の取り組み—身体活動度の向上と自己効力感・自己肯定感に乖離を認める減量手術後症例—. 第36回日本肥満症治療学会学術集会 2018
- 38) 牧野伸司, 和井内由充子, 武田彩乃, 畔上達彦, 広瀬寛, 西村知泰, 横山裕一, 森正明, 河邊博史: 大学生における先天性心疾患の管理状況. 第115回日本内科学会年次学術講演会 2018
- 39) Makino S, et al.: Versican is crucial for the initiation of cardiovascular lumen development in Medaka fish. Weinstein Cardiovascular Development and Regeneration Conference 2018
- 40) 松本可愛, 澁谷麻由美, 高橋綾, 齋藤圭美, 横山裕一, 森正明: 薬学病院実習に参加する学生の流行性ウイルスに関する「感染症記録」配布による感染症情報自己管理の試み. 第56回全国大学保健管理研究集会 2018
- 41) 康井洋介, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田敬子, 有馬ふじ代, 山田茉未子, 他: 小中学校における結核検診成績の変遷 (2007-2017年). 第65回日本学校保健学会学術大会 2018
- 42) 康井洋介, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田敬子, 有馬ふじ代, 山田茉未子, 他: 学童期におけるムンプスに対する集団免疫の検討. 第22回日本ワクチン学会学術集会 2018
- 43) 山田茉未子, 他: 症候群性口蓋裂の原因としてのSATB2半量不全: 新規3例と既報の検討. 第63回日本人類遺伝学会 2018
- 44) 山田茉未子, 徳村光昭, 井ノ口美香子, 内田敬子, 康井洋介, 有馬ふじ代, 三井俊賢, 他: 精巣捻転症への学校における取り組み. 第65回日本学校保健学会学術大会 2018
- 45) 山田茉未子, 他: Integrated analysis of RNA-seq and exome data in 179 subjects unravels frequent protein-truncating splicing events out of “missense” or “silent” mutations. 第41回日本小児遺伝学会学術集会 2019
- 46) 横山裕一: 飲酒の害と教育. 第56回全国大学保健管理関東甲信越地方部会研究集会シンポジウム 2018
- 47) 吉田祐, 内田敬子, 他: 肺動脈性肺高血圧症を来たすTBX4遺伝子の変異機能解析. 第3回日本肺高血圧・肺循環学会 2018
- 48) Wainai Y, Makino S: Usefulness of School Cardiac Checkup in University Students (with a Focus on Congenital Heart Disease and Kawasaki Disease). 第83回日本循環器学会学術集会 2019

編集後記

2018年は慶應義塾に医務部が開設（1868年）されてから150年の記念すべき年となりました。慶應義塾の発展とともに、当初の医務部を前身とする保健管理センターの業務も拡大し、現在では健康の保持増進のための教育や研究活動に加え、学生・生徒・児童および教職員を合わせて47,963人（2018年度）の健康管理および感染症管理業務等を担当しています。日吉・三田・湘南藤沢・矢上の4つのキャンパスには診療所を開設し、日吉・三田・信濃町・湘南藤沢・矢上・芝共立キャンパスおよび志木高等学校の各事業所では労働衛生管理業務に従事しています。

このような多忙な中で、2018年は慶應義塾大学が「全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会」の当番校を務め、8月には三田キャンパスにおいて「健康と安全をめざして～多様な情報を活かし、保健管理のさらなる充実を～」を共通テーマとして、第56回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会を開催いたしました。関東甲信越の167校437名もの参加者が集い、医学・医療の進歩や保健管理に係る理論・技術について研鑽を積む貴重な機会を提供することができたことは誇りであり、今後もさらなる努力を続けてまいります。

最後に本誌の作成にご尽力いただきました編集委員・スタッフおよび関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

慶應義塾大学保健管理センター年報編集委員会
今村江里子

年報編集委員会

編集委員長	徳村光昭		
編集委員主幹	清奈帆美 大山晶子 今村江里子	高橋綾香 當仲香	
編集委員	森正明 井ノ口美香子 武田彩乃 今野恵子 木村奈々 外山千鈴 武藤志保	横山裕一 西村知泰 畔上達彦 佐藤幸美子 松本可愛 澁谷麻由美 弦卷美保	(順不同)

慶應義塾大学保健管理センター年報 2018

2019年8月31日発行

[非売品]

発行人 森 正明

慶應義塾大学保健管理センター

[〒223-8521]

横浜市港北区日吉4丁目1-1

電話 045-566-1055

印刷・製本 (有)梅沢印刷所
